

留萌いま・むかし 第74話

開拓前の留萌原野

平地既墾地 七万坪
 高丘地 十九万坪
 平地 四百五十八万四千坪
 内訳 四百七十七万五千坪

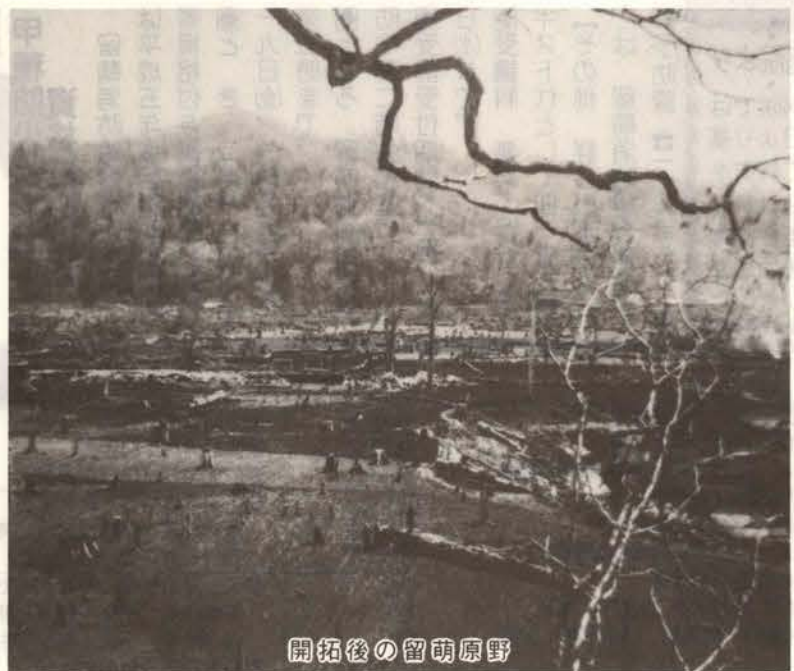
福士広志

海のふるさと館学芸係長

高丘草原 十六万坪
 平地樹林ノ内四十八万五千坪
 坪八湿潤ナルヲ以テ排水ヲ要スルモ其八直ニ耕作スルコトヲ得

たかを知ることができ。川岸の乾いた土地には人の背丈を越えるじ竹が密生しており、他にはハンゴンソウ、フキ、オオバイラクサ

現在の状況からは当時の状況を思い浮かべるのは容易なことではない。



開拓後の留萌原野

開拓前の留萌原野がどんな状況であったかを明治三十年に殖民地に選定されたときの報文からみてみよう。北海道殖民地選定第二、第三報文によると

平地樹林 三百五十七万九千坪
 平地草原 九十三万五千坪
 高丘樹林 三万千坪

とある。このように当時は藪蒼とした森林に覆われ、留萌川の川岸は肥沃な土地であった。続いてどんな植物があっ

があった。山裾の湿潤なところにはヨシ、スズタケ、ミスバシヨウ、ヒルガオなどがあつた。樹木は一般にニレ、ヤチタモ、オニグルミ、キハダ、イタヤなどがあつた。河畔から奥に進とほとんどが森林に覆われ、下草はジダケであつた。下流のアイトシナイの方は菫(やち)になっており、ハシドイ、ヤチタモ、ヨシ、ササなどがあつたがあまり成長はよくない。また、留萌市街付近の高台はカヤ、ワラビ、スズタケの草原となつているが、こゝも成育は良くないと記されている。当時の原野区画の始まり一線は現在のラルスブラザの横の道路であり、それより奥はこのような状況であつた。留萌川の川岸を除いては藪蒼とした森林に覆われ昼なお暗い状況であつたろう。



誓いの言葉を述べる近藤恒幸君と吉田香里さん



将来は日本語の教師になりたいと言うシェパードさん



思いあらたに市民憲章を朗唱



和服でひきしめて新たな決意

二〇歳の門出
 四二三人の若者が
 大人の仲間入り

去る一月十五日留萌市文化センターで成人式が行われ、夢と希望に満ちた成人が大人の仲間入りをしました。式典では、新成人の若人たちが、はつらつとした表情で彩られました。今年の成人式には留萌に滞在中のオーストラリアの女性、カイリー・シェパードさんも振りそで姿で出席。ちよとした国際感覚で花を添えていました。